

ことばの教育

大阪大学大学院人文学研究科附属
複言語・複文化共存社会研究センター
主催シンポジウム

継承・復興

2025年

3月24日(月)

14:00~17:00 (13:30 開場)

■会場:箕面市立文化芸術劇場小ホール
■定員:300人(先着順)



■申込方法:
<https://oufukufukusympo.peatix.com>
■申込締切:
2025年3月21日(金)正午

お申し込みは
こちらから

※上記の方法でのお申込みが難しい場合は、
下部に記載のお問合せ先までご連絡ください。

参加費無料
日本語通訳あり!

多文化が進む日本では、言語や文化的背景が多様な子どもが増加しています。この子どもたちは、制度面の壁、母語・母文化の喪失、アイデンティティの揺らぎといったさまざまな課題に直面しています。大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター(通称:阪大ふくふくセンター)では、外国にルーツを持つ子どもたちに関わる支援活動や教育研究活動により、「複言語・複文化の共存」を当たり前と思える社会の構築を目指しています。

今回は、海外の様々な地域でルーツの異なる多様な学習者を対象に言語教育分野の第一線で活躍する方々をお招きし、多文化共生社会の実現における言語の問題について共に考えます。大阪大学の研究者・学生はもちろん、学外の研究者、教育関係者や外国人住民にかかわる団体のスタッフの方々なども是非ご参加ください。

<講演者>



Pia Arboleda

ハワイ大学マノア校 人文言語文学部インド太平洋言語文学科 教授
心と魂 —フィリピンの言語と文化を通じた
多様な学習者のエンパワメント—



Quyen Di Chuc Bui

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ベトナム語講師
米国カリフォルニア州ベトナム系アメリカ人
コミュニティにおける継承語の保存と促進



簡月真

台湾国立東華大学 民族言語及びコミュニケーション学科 教授兼主任
台湾原住民の言語復興のいま
—幼児から成人までが復興対象に—

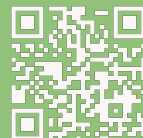
主催:大阪大学大学院人文学研究科附属 複言語・複文化共存社会研究センター
共催:大阪大学外国語学部
協力:大阪大学21世紀懐徳堂

同日開催

阪大ふくふくセンター交流会

(要申込)

時間 シンポジウム終了後~19:30
会場 大阪大学箕面キャンパス カフェテリアレインボー
参加費 1,000円
申込締切 2025年3月12日(水)
申込方法 <https://oufukufukukouryu.peatix.com>



※シンポジウム参加者を対象とした交流会です。

お申し込みは
こちらから

<お問合せ>

大阪大学人文学研究科 箕面事務部 事業推進係
Tel: 072-730-5013 Mail: jinbun-minoh-jigyo@office.osaka-u.ac.jp



プログラム

時刻は目安であり、前後することがありますので予めご了承ください

開 会 挨拶

阪大ふくふくセンター 竹村 景子 センター長

1 14:05~

心と魂 —フィリピンの言語と文化を通じた多様な学習者のエンパワメント—

英語(日本語訳あり)



Pia Arboleda

(ハワイ大学マノア校 人文言語文学部インド太平洋言語文学科 教授)

ハワイ大学マノア校 人文言語文学部インド太平洋言語文学科教授、東南アジア研究センター 臨時センター長。フィリピン語とフィリピン文学の教育に力を入れている。フィリピンの複数の大学でも教鞭を執った他、大阪大学(旧大阪外国語大学)では客員教授として4年間、東南アジアの文化やフィリピンの言語・文化に親しめるよう工夫を凝らした授業を実践した。詩人・作家としても作品を発表しており、フィリピンの民話に関する多言語教材の作成にも取り組む。教育、創作、地域における活動を通して、情熱と創造力をもって多くの学生や読者に刺激を与えている。

2 14:45~

米国カリフォルニア州ベトナム系アメリカ人コミュニティの継承語の保存と促進

英語(日本語訳あり)



Quyen Di Chuc Bui

(カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ベトナム語講師)

カリフォルニア大学ロサンゼルス校アジア言語文化学部上級講師、ベトナム語教育の専門家、カリフォルニア州南部オレンジ郡リトル・サイゴンにおけるベトナム人コミュニティの研究者。現在、ガーデングローブ学区英語・ベトナム語二言語イマージョンプログラムのコンサルタントも務める。

3 15:40~

台湾原住民族の言語復興のいま —幼児から成人までが復興対象に—

日本語



簡月真

(台湾国立東華大学 民族言語及びコミュニケーション学科 教授兼主任)

専門は社会言語学・接触言語学・日本語学。主要著作に『新版 社会言語学図集』(共編、東京：ひつじ書房、2021年)、Yilan Creole (In Handbook on Formosan Languages Online: The Indigenous Languages of Taiwan. Leiden; Boston: Brill, 2023年)、『旅するニホンゴ—異言語との出会いが変えたもの』(共著、東京：岩波書店、2013年)などがある。

質 疑 応 答

3名の講師による講演後、会場からの質問を受け付ける時間を設けます。様々な立場の方からの質問に回答し、共に考えを深めることのできる場とします。普段はなかなか話を聞くことのできない海外の研究者に、質問を投げかけてください。

<アクセス>

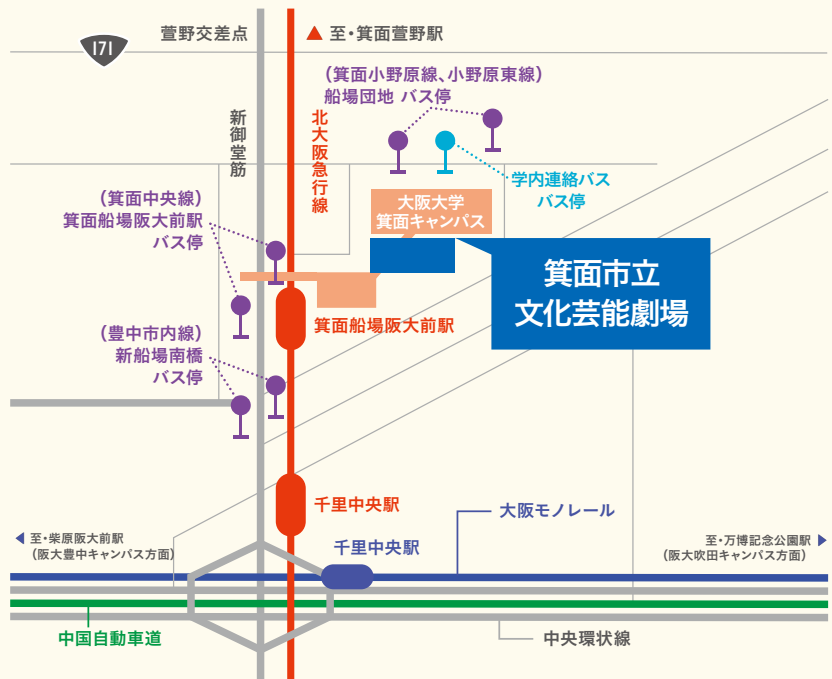
箕面市立文化芸術劇場小ホール

大阪府箕面市船場東3-10-1

- ・大阪メトロ御堂筋線～北大阪急行電鉄
「箕面船場阪大前」駅 1番出口からすぐ
- ・阪急バス「箕面駅」から彩都線または
箕面山麓線「箕面萱野駅」下車→
北大阪急行電鉄「箕面船場阪大前」駅
1番出口からすぐ



■ 申込方法
<https://oufukufukusympo.peatix.com>
■ 申込締切
2025年3月21日(金) 正午



同日開催

阪大ふくふくセンター交流会

(要申込)



シンポジウム参加者と講演者、本学教員を交えた交流会を実施します。

お飲み物とお食事をご用意しておりますので、大阪大学の研究者・学生はもちろん、学外の研究者、教育関係者や外国人住民にかかわる団体のスタッフなど、多様な立場の方との情報共有や意見交換の場としてお役立てください。

時間 シンポジウム終了後～19:30

参加費 1,000円(当日現金払い)

会場 大阪大学箕面キャンパス外国学研究講義棟3階
カフェテリアレインボー
(シンポジウム会場から徒歩2分)

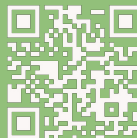
申込締切 2025年3月12日(水)

定員 60名(先着順)

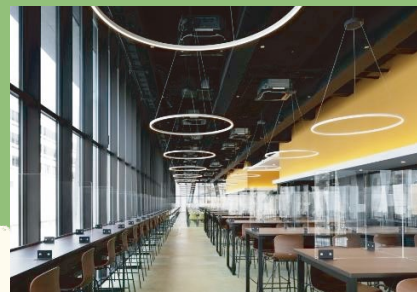
申込方法 <https://oufukufukukouryu.peatix.com>

※シンポジウム参加者を対象とした交流会です。
交流会のみの参加は受け付けておりません。

主催：大阪大学大学院人文学研究科附属
複言語・複文化共存社会研究センター



お申し込みは
こちらから



本シンポジウムは、「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」

“「地域に生き世界に伸びる」社会価値創出を目指す多文化『共育』事業”によるものです。

阪大ふくふくセンターについて

目の前にいる子どもを
〈日本語ができない子ども〉
として見ますか。それとも
〈複数のことばと文化を持つ可能性のある子ども〉
として見ますか。
子どもの可能性を奪わない社会を作っていく責任が
私たちにはあるのです。

大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター（通称：阪大ふくふくセンター）では、多様な文化的・言語的背景を持つ子どもたちが、自分の言語や背景を活用し、ルーツに誇りを持って成長できるように、地域社会、地方自治体、学校の取り組みに対するサポートを通して、言語間や文化間、人と人との仲介者としての役割を果たし、社会課題の解決を目指す活動を行っております。

1 支援活動の推進

- ・ 箕面キャンパスにおける、外国にルーツを持つ子どもの支援や教育の相談窓口を一元化し、地域社会や地方自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等にとっての利便性を高めます。
- ・ 活動に関心を持つ学生・卒業生・教職員を「メディエーター」として登録し、必要とされる支援内容等とのマッチングを経て各現場へ紹介するとともに、現場の実情を把握します。

2 研究・教育活動の推進

- ・ メディエーターに対する登録説明会やフォローアップを実施し、言語や文化が異なる人々の間を仲介する力を育てます。
- ・ 活動の成果や課題を取りまとめ、講演会や研究会を開催します。
- ・ 国内外の研究・教育組織との情報共有や共同研究を進め、課題の解決を図ります。



3 連携体制の構築と提案・提言

- ・ 自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等との協力体制を構築するとともに、大阪大学内の関係機関との連携・協力によるデータ収集や課題の把握を担います。
- ・ 学術的見地に立って、複言語・複文化共存社会に向けた教育の在り方や行政の進め方を提言し、学区や自治体の枠組みを超えた仕組み作り等にも貢献します。



阪大ふくふくセンター

大阪大学大学院人文学研究科附属 複言語・複文化共存社会研究センター
Diversity and Community Engagement Research Center (DERC)

